C-31

191
327

亞弗利加少年

サムエルモーリスの傳

聖靈によりて生れ
聖靈に導かれ
聖靈に滿されたる

特47.1
890

サムエル、モーリス、小傳

此小冊子を書き著はしました唯一つの希望は、我々の信する神の御業は眞に驚くべくまた不思議であると云ふことを、我讀者諸君にお知らせ致したいのであります、我々は、今日の信徒方に、嬰兒の樣な、單純の信仰が乏しいため、却つて力ある神の、御働きを妨げて居るまいかと、氣遣ふのであります、サムエル、モーリスの信仰は、堅固でそして素直でありました、それゆへ弱い者を擇んでその大能を顯はし玉ふ神は、彼に力を與へ不思議な働きを爲させ玉ふたのであります、かのベタニヤのマリヤは其名が後々まで傳はると云ふことは夢にも思はなんだとでありまし

約翰十一、〇二十八、

馬太二十六〇十三、

たろう只友達や近所の人々に知られ、そして「師來りて爾を呼び玉へり」と云はるゝ樣な譽れを得てことよなく喜んで居つたのであります、併し彼女か價の高い、ナルダ香油をイエスの足に濺ぎかけ、感謝の涙を流しておのか綠の黑髮を以つて拭ふた事が、圖らず其名を不朽に致したのであります、「われ誠に爾曹に告げん天の下いづくにても此福音の宣傳へらるゝ處には此婦の行しゝ事も記念の爲に言ひ傳へらるべし」と、こはマリヤの致したその報酬として與へられたのではなく、只其美はしい志を褒め玉ふたので、ツマリ善き働きを褒め玉ふ尊い手本を敎示されたのであります、サムエルモーリスの名か今日殘つたのも畢竟これと同じであります。ゆへに若し此小冊子が、わけなく面白い事柄であるかちと云ふて、お伽噺の積りで書きますなら、かれサムエルは、其眞面目な黑い顏をふりむけ、暫らく考へ靜に頭を振り、そして其大きな眼を光ら

し、「イヤ〳〵リード氏、つまらんサムミー、モーリスの事を書かず、キリストや聖靈の事を書いて下さい」と、申すとでありませう。それゆへ私は、サムミー、モーリスの事を述べると同時に、キリストと、聖靈の事も、書き度思ふのであります、何故かと申せば、若しキリストが聖靈により、彼に顯はれ玉はなかつたとすれば、かれは米國に來るとも、大學なぞに入るとも出來ず蒙昧野蠻なアフリカで、奴隷のまゝ死んで仕舞ふたのです、けれども凡て神を呼び求むる所の人は、其國や人種の隔てなく、救ひ玉ふとが、かれの上に顯はされて、居るからであります。さてサムミー、モーリスの過去つた昔の事は、彼が話した言葉を、信ずるより外に、仕方はありません、これはドウしても、他に知る途がないのです、則ちかれが、なつかしい家や、親しい母親から、つらい別れをした其悲哀や、また無殘な主人から、折檻された苦痛は、ドレ程であつたか、誰にも分りません、尙又彼か

主人の家から、逃げ出したとや、神がかれを守つて、安らかな途に導いて、自由の身とされた事なぞは、誰も知らないとであります、私は、彼が受けた樣々の苦しみや、其來歷を聞きましてから、彼の事が、始終私の、念頭から離れません、此一少黑人は私に取りまして、實に、日々の休徵また神の洪大な惠みを顯はす奇跡であります、御蔭で私は、彼を兄弟と思ふて愛するとが出來たのみならず、信仰と云ふ事や聖とせらるゝと云ふ事を、始めて學ぶとが出來ました、若し彼の來歷を、委しく御話申すならば、確に、私や他の數百の方々が得た樣な、同し利益をお聞きになる幾千の方々に御與へ申すとが出來ると信じます、彼は卑しい黑奴とは申せ中々輕侮るべきものではありません、キリストは彼を愛して救ひ玉ふたのであります、天の眞の光りは彼を清き者となし、キリストの血は彼の心を雪よりも、白くなし玉ひました、それのみならず聖靈は、彼を其殿とな

されたのであります。

扨サムエル、モーリス、の素性を尋ねますれば、彼はアフリカの、或王の子であると云ふとです、併し王とは申せ、誠に哀れな者で、僅に村を造つて、其仲間を支配するのです、時にはかゝる王や、首長と呼ばるゝ者は、聊かの領地や、數百人の部下を有つて居るそうですが、大底は、其上に、大きな、力ある、支配者を戴いて居る樣思はれます、サムエルの父も、この卑しい支配者の一人で、アフリカの西部に住む、クルー族のものです、然るにサムミーが幼少の頃他のアフリカ蠻族から襲はれまして、父の領地は打毀はされサムミー自身は囚虜人となり、不幸にも奴隷の身となりました、掠奪者はサムミーのまだ年少で、到底益に立たないのは、知つて居りますが、何れ後日に、クルー人が贖に來るであらうと考へたのか、人質と致して置きました、彼等は此希望を以つて、サムミーが十一才の時又々

他の掠奪者に拐はるゝ迄、養ふて置いたのです、サムミーは此第二の囚虜となつた頃から、微かながらも覺えて居る節々があると云ふとです、其一つは、

或時私の父は私を贖ふと思ふて、財を持つて、參りました、其財と云ふは國で重に流通する、象牙で造えた物や、胡桃の核や、印度の磨石であつたのです、併し彼等はこれでも中々滿足を致しませんゆへ、父は私の妹を添え樣と申しました、私はこれを聞いて、嬉しく思ひましたけれど、ドウも年端の往かぬ妹と代るのは快くありませんでしたから、私は父に、私は妹よりも年を多く取つてるし、苦役にも堪えるとが出來ますから、必ず心配して下さるな」と願ひまして、自分は矢張り、囚虜人となつて居りましたが、此事のあつた後と云ふ者は、私の生涯は全く、苦痛の有樣となりまして、私を監督して居る酋長は、父が屹度適當

の價を持つて、贖に來るとと思ふてか、毎日打擲し始めました、そして其事が可成父に知れる樣、心掛けた樣でした、彼等は毎日々々鞭ち、何の譯もないのに苛責致しました、

「何で鞭つたのだ」と尋ねましたら、繩の樣な蔓です」と答へました、「上衣を取つてか」と申すと、彼は笑ひながら、「上衣ですか吾々は上衣もなければ、下衣も、シャツも何んにもないのです」と、彼は丸裸で打たれたのです、慈悲もなさけもあらくれ男、只贖の料の欲しい外、餘念のない、無殘な手で苦しめたのです、かく毎日々々受ける苛責に、サムミーも、所詮忍ぶとが出來なくなつてトウ々々其處を逃げ出しまして、力のかぎり、根かぎり、行く先も知らずに、森の中を奔走りに走り通しました、併し天の神は、昔イシマエルの母が其子の苦痛を見るに忍びないとて、砂の上に棄て置いたのを守り玉ふた樣に、サムミーを守り玉ふて、森の中、山の中、荒野の

中から、彼を海邊に導き玉ひました、私は彼がドノ位歩んだか知りませんが恐く彼自身も知らなかつたでありましやう、多分種々の困難に遇ひ、多くの日を費したとでありましたろうと存じます、彼は素から眞の神のあるとは知らなかつたのです、而も一羽の雀を養ひ玉ふ神の攝理は、彼をも養ひ玉ひ、かの東方の博士を、ベツレヘムに導き玉ふた神は、此憐れな小兒を海邊まで否キリスト迄導き玉ひました、サムミーは海岸に參りまして後は、コーヒー農場に傭はれ、勞働して生活を致して居つたのであります。

彼がキリストを信じて其宗教生涯には入つたのは此處でした、非常に短い間であつたが、其信仰は聖く、美はしく且單純でありました、此處にサムミーと同國の少年で、キリスト信徒となつて居つた者がありまして此少年が荐りに、キリストの事を話し、傳道致しまして、或時會堂へ誘

ひ出しました、サムミーは少しも英語を知りませず、又教會の樣子も分りませんから、聖書や、說教や、其他の事が、皆奇妙に思はれましたけれど何となく、聖い力ある者が在すのを感じ。夫と同時に自分の價値ないとや、罪ある事が、思ひ浮んだそうです、彼は痛める心と、道を求むる思を持つて、最初の禮拜を致したので、丁度かのエテオピヤの寺人かピリピの導きを求めた樣に、其途を探つて居つたのです、彼は其友達の祈禱して居るのを聞付けて「何をしてるんか」と、尋ねますと友達は「神樣と御話をして居るのだ」と答へました、サムミーは尙々「其神とは誰れだ」と聞きますと「夫は我々のお父さんだ」と、敎へました、サムミーは正直に「メーカお前はお前のお父さんとお話をするのか」と

其後間もなくサムミーもお父さんとお話をする樣になりましたが彼の信仰は、昔しのメソヂスト信徒の樣に確固で、そして活潑して居まし

て、今日の我々の信仰の様な浮沈がありませんでした、彼は何時でもかまはず、御父さんと御話を致します、時には夜、夜中に、大聲を出して祈りますゆへ、トゥ々々其仲間から苦情を云はれ、若しドゥしても止めるとが出來なければ、この所を放逐して仕舞と申されました、それからは其祈禱場を森の中ときめて、茲で誰憚らず、丁度ヤコブがペニエルでした樣に、毎夜天の使と爭ふて居りました、或夜晩く迄其森の中で一生懸命と祈つて、居りましたが、トゥ々々疲れ果てゝ重々しげに其部屋に歸つて横になりました、けれど中々眠るとが出來ず、モウ口も疲れて開くとが出來ず、只心の中で祈つて居つたと云ふとでした、スルト忽ち其家の中は、光り出しました、彼は始は、モー太陽が出たとと思ふたのですが、外の人達はよく眠つて居りましたからハテ變だなと思ふ内、其異常の光りは、愈々輝き、それと同時に、彼の重荷は、トントなくなり、心の底から喜

びが溢れ出る樣で、其身躰は羽根かと思ふ程輕くなりました、サアソーなると中々臥ては居られません、昔しのメソヂスト風に、躍ね起きて叫び出し眠つて居る人達を、呼び醒しました、人々は吃驚して、これは氣でも違ふたのだと云ひ、或人は魔に付かれたのだと思ひましたが、これこそ彼の眞誠の悔改であつたのです、其后彼が其悔改めた事を話す時は、いつも其眼は光りを放ち、其身躰は震ひ出しまして其樣子は丁度聖歌にある樣です

一　われつみびとの　かしらなれども
　　きみはわかため　ちしほをなかし
　　われにかはりて　みうせたまへり
二　かくてわれをも　あまのほらせつ
　　ときはのいのち　えさせたまへば

わがみはきみを　はなれぬものぞ

三　いとものこよなき　きみがめくみや

あめよりたかく　うみよりふかく

とこしへまでも　かはることなし

四　みいつくしみは　いとたへなりや

わがみはきみを　しらざるさきに

きみはわれをは　もとめたまへり

五　ことたらぬみの　かなしさまでも

きみはもらさず　しろしめしたまふ

きみよりほかに　いのちはあらじ

サムミーは伊時迄このコーヒー農場に居つたのだか、分りませんが、兎に角、英語を話さ又僅かでも讀み書きが出來るまで、止まつたとと存じ

ます。一躰、サムミーと云ふ名は始からの名ではないので、素カブーと云ふたのです、併し、かれに敎育と單純の福音を傳へた或婦人宣敎師がサムエル、モーリスと云ふ名を與へたのです。サムエルはコーヒー農場を出てから、勞働社會には入りまして、殆んど二年程勤めて居つた樣です、しかしこの間も、よく傳道者の敎に從つて居りましたが、或時不圖自分を救ひ玉ふたキリストの惠を其同胞に傳へるとは自分の義務であると、感じまして彼は居たまらす、宣敎師シー、イー、スマール氏を訪ひ、其心を打開けて相談を致しました、スマール氏は懇に人々に說敎するには、敎育を受けなければならず、敎育を受けるには米國に往かねはならず、米國に往くには百弗の金がなければならぬと申し聞かせました、サムミーはこれを聞きますと、すぐ、この事をお父さんに話そうとて急いで、例の森の中へ往き、『オヽ父よあなたは私に、說敎する樣、命じ玉ひました

けれど、宣教師は私が教育を受けなければ、説教するとが出來ず、教育を受けるには、アメリカへ往かねはならず、アメリカに往くには百弗なければならぬと申しました、あなたは、私に一文もないとは、御承知です、ドウか私に往く途を教へて下さいと祈りました、彼が此事を私に話した時には眞面目に私は父が往かして下さると信じて居りましたと申しました、彼は此祈を捧げてから只管機を待つて居りましたが、丁處、其頃新に宣教師となつて、赴任せられた一人の若い婦人に遇ふて、聖靈の事や、ニユーヨルクの定住傳道者で牧師をして居らるゝ大説教家ステッフエンメリット氏の事を聞かされましたが、これぞ彼に渡米の途が開かれた初であります、下に掲ぐる一文は、そのメリット氏の、ものせられたので、キングス、メッセンヂヤーと、云ふ雜誌に載てあつたのです、

聖靈の生涯

サムエル、モーリスは、クルーに生れた少年で、アフリカ人中尤も純粹の黑種であります、私が初めて彼に遇ひました時は凡そ二十才位と見受ました彼はライベリヤと云ふ處で、ペンキ職を致して居りまして、茲で始めて、神を知つたそうであります、かつて一人の婦人が宣教師となつて監督テーロル氏の下で働くため、私が監督の書記を致して居るので、西部地方から、はる〻〻私の處へ來られました、私は其頃聖靈に感じて居りましたゆへ、聖靈について心にある限り殘らず、此婦人に話しまして、『若し貴嬢が聖靈を受けられたならば、十分成効し又疾病に罹るとも淋しい事もなく、貴嬢の力となり、智慧となり、又快樂となつて、貴嬢の生涯はアフリカ大陸で絶えぬ讃美の歌となるとです』と、申しますと、婦人も至極同意致し、ひたすらこれが爲めに、祈られ直ちに、聖靈を蒙られ、聖靈に充たされて、本國を出發致されました

が、同行の宣教師方は竊々、此婦人が今に弱はり果てゝ、起たり坐つたり、泣たり笑つたり、するとであろうなど、申して居られましたけれど婦人は實にキリストと一緒に往きましたから、少しも失望は致しません、任地に來られても滿足と喜悅と幸福の内に働いて居られましたこのクルーの少年サムエル、モーリスは、婦人の到着されたとを聞きまして、態々、數哩もある處から來り、種々聖靈の事を聞き愈々熱心になり、遠い處も厭はず、度々來て色々聞きますゆへ婦人も殆んど疲れる程になりました、夫故或時たはむれに、『モット多く知り度はニューヨルクのステフェンメリット氏の處へ往つた方かよろしい氏は私に聖靈の事を殘らず、話して下さつた御方であります』と申さると、彼は『私は參りましやう何處に住はれるのですか』、婦人は笑ひながら『ニューヨルクです』と、彼はそれを聞くと直樣出立致して、數哩歩み

海岸に參りました處、丁度一艘の帆前船が澳に係つて出帆の用意をして居る間際で小艇が岸に鎖かれてありました、サムエルは用捨なく、それに乘つて船長の處へ參りニューヨルクに連れて往つて貰ひ度と賴みましたが船長は其無作法に立腹して罵つたり蹴つたり致しましたけれど彼は少しも怒らず「御尤です」と云ふて岸に參り其夜は砂の上に眠つて翌日また賴みに參りましたけれども中々聞入れません併しサムエルは失望致しませんでした、其翌日また々々賴みましたが矢張り聞入れません、けれど彼は熱心に願ひましたら、トウ々々船長も心を動かし、『お前は一躰何が出來るか』と尋ねました、サムエルハこゝぞと思ふて、『何でも出來ます』と答へますと』メーカ、それなら何か欲しい者があるか』と尋ねました、これは給金の事を問ふたのです、處がサムエルは『私はステッフェンメリット氏に逢ひたうござ

いますと答へました、船長は『ヨシ連れて往つてやる』と漸く許されました。

サムエルは船に乗込みましたが、船の事や、航海の事は何にも知りません、それゆへ、毎日罵られたり拳たれたり、蹴られたり致しましたが彼は少しもかまはず、其平和なとは大河の如く其信仰厳の如く堅固でありました、彼が掃除の爲に、船室に参りますと、船長は先づ自分の罪を認めて悔改め、それから聖靈の火はだん〳〵船中に焚へて乗組員の過半は救はれました、船はベセルとなり、讃美の歌は大海の波の上に響き渡り、それからは、朴直なクルー少年の爲には萬事都合よくなつてまいりました。

船はニューヨルクの港に到着致し乗客は無事を祝して銘々上陸致しました、サムエルも乗組人から惠まれた布袋を(彼は股衣の外靴も

なければ何もなかつたのでした)抱へ、船渠の上を歩きながら、初めて遇ふた人に『ステフェンメリット氏は何處に住はれるのですか』と尋ねました、其人は私は委しく知らんが、私の家から三四哩もあるだろうと云ひ乗てゝ往きました、しかし神は敬へ玉ひました、此有様を或船客は見て『私はよく知つて居る、氏は第八大路の向ふ側に住はるのだ、若し一弗出したなら、私はお前を連れて往つてあげよう』と申しました、サムエルは一銭も持ちません、けれど『よろしい願いましやう』と云ふて參つたのです、其時私は丁度祈禱會に往こうとした時でした案内者はアノ方だと申しますとサムエルは進んで參り、

サ　貴君がステッフェンメリット氏ですか、

ス　左様、

サ　私はサムエル、モーリスです、聖靈の話を聽こうと思ふてアフリ

カから參りました、

ス　紹介狀は御持參か、

ヤ　イエ夫を貰ふ暇がありませんでした、

ス　ソーカ、ヨロシイ〳〵〳〵、私は今ジェーン町の祈禱會へ往く處だ、御前は隣りの傳道局に往つてしばらく待つて居らんか、私か戻つてから話そふ、

サ　よろしうございます、

案内者　オイ若い衆一弗は何時呉れるのか、

サムミー　は平氣で

ア、それはステフェンダリット氏が拂ふのだ、

私は

オ、ソーダ」と一弗渡しました、

かくて私は祈禱會に、サムエルは傳道局へ參りました、併し私は祈禱會を了へて、自分の部屋へ入つて眠る迄、スッカリ、サムエルの事を忘れて居つたので、私が氣の付いた時は、丁度十時半頃でした、コレハ大變だと思つて、急いで行つて見ますと、彼は十七八名の人と一緒に講堂でキリストの事を話して居り、彼等は罪の赦しを得て喜んで居つた所です、私は此時程奇異の感情を持つたことはありません、講壇に立つて居る、聖靈の充ちた黒い天使と、それを聞いて居る人達の有樣は、丸で畫の樣でありました、

教育もなく、作法も知らない、朴直なアフリカ少年が、聖靈の力でなしました、米國に來て、初夜の救靈の成効を思へば、モー彼を養ふ心配は入りません、彼は神から油濺かれた人であれば、神は彼を養ひ玉ふことであります、此日は金曜日でした土曜日は一日休息させました、日

曜日に私は、『サムエル、お前は私と一緒に日曜學校へ往かないか、そして何か話して呉れたらどうだ』と申しますと、彼は答へて、『私はまだ日曜學校へ往つたことはありません、けれど承知しました、話しませう、』私は微笑ながら、これは聖靈の事を聽こうと、アフリカから私の處へ參つたサムエル、モリスと云ふものですと、紹介致しまして、サムエルに話す機を注意致しますと、其塲なれぬ樣子が可笑かつたので、人々はクス〳〵笑ひ出しました、私は用があつて、他の事をして、フト聽衆を見ると、彼が何を話したのだか、倏急に自分の罪を見出して、泣き哀む人が澤山ありまして、聖靈は著しく、其榮光を顯はし玉ひました、其後敎會の少年達はサムエル、モーリス傳道會と云ふを組織まして、金錢、衣服、其外入用の品物を持たせて、インヂヤナ洲ウエーン町のテーロル大學へ送ろうと致しました、そして其出立を待つ間も驚くべき

事が色々でございました、或日のとハーレム町で葬式がありましたから、私はサムエルを連れて馬車で參りました、私は『サムエル、私はお前に中央公園を見せて遣りたいと思ふのだ』と、申しましたが、彼は生れて始めて馬車に乘つたものですから、只面白くつてたまりません、私はソロ〳〵『サムエル、これが中央大劇塲である』なぞと說明を仕始めますと、彼は『ステツフェンメリツト氏、あなたは馬車の中で、御祈なされたことがありますか』と、尋ねますゆゑ『ア、度々祈つて、惠を得た』と申すと、彼は眞黑な大手を、私の膝の上に乘せて、私共祈りませうと跪きますゆへ、私も跪いて、先づ祈りました、彼も後から、聖靈の事が聞き度つて、アフリカから私の處へ來たとから、私が凡ての事を敎へたとや、又會堂や町や公園などの事を種々話されるけれども、彼は只聖靈を知り度いのであると云ふ事や、聖靈に充たされる爲に、凡ての者を、心の

中から取去らるゝことを祈りました、此日馬車に乗つて居つた人は、三人でありますが、此樣な日はありませんでした、私共は聖靈に充たされ、かつて受けなかつた、敎導を蒙ることが出來ました。

私は、敎會の長老職に上る迄には、多くの監督方から、按手禮を受けましたけれど、力は左程受けませんでした、ゼームス、コーヘーは、私と私の親友の爲に、祈つて下さいまして、大ひに力を受けました、けれどサムエル、モーリスと、馬車の中で蒙たのは非常でありまして、私はその後聖靈か、其事の外は、一切談話も說敎も致しませんです。サムエル、モーリスは、私即ちステフェンメリットよりも、勝つて大な神の御業を顯はす器でありました、彼はウエーン町に參りまして、其大學を一變させました、彼は其働きを爲し終つて永き眠りに就きましたが、聖靈によりて歩む者は死ぬとも死にませんで、サムエル、モーリスの生命は、

今日尙ほ世界を經過り居るとです、彼の葬式の後に、敎育あり聖靈を受けた三少年は、サムエル、モーリスに代つてアフリカ傳道に獻身致しました。

サムエル、モーリスが米國に參る時、起つた二つの事柄は、彼の信仰の驚くべきことを顯はします、彼が初め船長に、米國に連れて往つて貰ひ度と願ふた時、船長は『以前船に乘つたことがあるか』と尋ねますと、彼は正直に『インエ』と答へたのです、スルト船長は『ソンナラお前を連れて往く譯には行かん、船に乘ると、屹と始終病氣をして、少しも益に立たないから』と申しました、サムミーは『インエ私は決して病氣を致しません、私はお父さんに祈ります、お父さんは病氣に罹らない樣して下さいますから、米國に往く迄は毎日御用を辯じします』と答へ、船長も『ソレナレバ』と船に乘ることを許しましたが、不幸にも、乘込んで三日目に激しい病氣にか

ゝりました、サムミーは、生れて始めて、コンナ大病にかゝつたそうです、私は『其時お前はドウした』と、問ひましたれば、彼は『オ、私は、跪いて祈りました、父よあなたは、私を米國に往くまで、毎日此人の爲めに働くことを約束させ玉ひましたが、私は病氣で働くことが出來ません、ドーゾ、此病氣を取つて下さい』と、そしてすぐ快復して、仕事が出來る樣になりました。彼は又檣の上に登つて仕事をすることを命せられましたが、これは甚だ好まないことですが、致方がありません、然るに或暴風雨の夜の事ですが、彼は帆を卷く爲め檣の上に登らせられました、其時は非常な暴摸樣で、船は木の葉の漂ふ如く、前後左右に搖り動かされ、篠つく雨は兩眼を打つて眼を開いて居ることも出來ない程でした、この時彼は仕事をしながら祈つて申す樣、『父よ、あなたは、私を守つて下さることを知つて居りますから、決して恐しいとはありません、併し檣の上に登ることは好みません

んゆへ、ドウかモー此處に來ない樣にして下さい』と、彼はかく祈りましたが、其祈りは聞かれたと信して居つたのです、次の日又檣の上へ登らなければならない樣になりまして、彼は他の水夫と一緒に檣の下まで參りますと、一人の水夫が來て、『サムお前は檣の仕事は嫌いだチーわしは船室の掃除は大閉口ダ、ドウダイわしの仕事とカエッコしては』と、この樣にサムミーの祈りは聞かれ、彼は其後また檣へは登らなかつたと云ふことです。

私がサムミーを知つたのは、有名の説教家前のテーロル大學の校長であつた、インデアナ州ウエーン町の牧師、博士シー、ビー、ステメン氏へ、ニューヨルクの牧師スラフェンメリット氏より寄せられた手紙であります、其文面にはサムミー、モーリスがテーロル大學には入る目的と、ジェーン街教會員は、この勇敢な黒少年に衣食の料を募り大學に送ると、

列王紀上十七〇四、同十、十七〇

將來大學で何とか補助を願ふ、云々とあつたのです、それで私共はこれが爲に種々相談を致しましたか、何分大學は建つて間もないのであるし、其上負債もまだ殘つて居りますから、到底此少年を養ふ餘有はありませんです、併し私共は、何事も神の御胸にあるとを信して、斷りは致しません、昔しクリテ川の水とザレバテの貧しい寡婦の肉と油で預言者を養ひ玉ふた神は、此少年を養ひ玉ふとを信して、早速メリット氏へ『彼を送り玉へ、神は養ひ玉はん』と、返書致しました、彼は十二月中旬に到着しましたが、初めてこれを見た教師方始め學生等は、何れも奇異に感しました、彼こそ眞に少しの純り氣のないアフリカ人です、唇は飽く迄厚く其鼻は獅子鼻で大きくそして平たく、如何にも黒人種の特質を供へて居りました、其發音の工合、調子の按排が、アメリカの黒奴とは似も付かず、我々は今日迄殆んど見たとのない新奇の者でした、私共は彼の經

出埃及記四十六〇十五、

歷、殊に太洋を渡る時彼を保護なし玉ふた神の御業を聞いて驚き入りましたが、此吾々の内に居る黒天使は、聖靈に撰はれた者であると云ふには其當時、少しも氣付ませんでした、私は我々が奇妙に思ふたより、かれの方がどの位不思議に思ふたか知れないと存じます、かれは衣類の事や食品の事見る者觸れる者を一々問ひ尋ねました、私は彼が始めて雪の積つたのを見て、ドレ程吃驚したか今に忘れるとは出來ません、かのイスラエル人が其天幕の四圍に、灰色の霜の樣な新食物の降つたのを見て非常に驚いて『マナ、マナこれは何ぞ』と互に言ふた通り、サムミーも雪を見て、全躰これは何だろうと云ひながら、其手の掌へ取り上げ、しばらくながめて居つたが段々融けて只水ばかり殘つたのを見て、雪は私の手に水を置いて何處にか往つて仕舞つたと申しました、

テーロル大學では、男女や、宗派や、人種の區別は致しませんが、サムミー、

モーリスは特種の人物にて入校した所謂先登第一のものです、彼は教師方や生徒達から可愛がられ、かつ尊はれまして、それは大統領の子息ならではと思ふ程、丁寧に取扱はれました。

サムミーが到着して間もなく、私は『ウエスタン、クリスチヤン、アドボクート』と云ふ新聞に、彼の事柄を寄書致した處、これに感じて其費用として一弗送ろうと申された篤志家が引續いて十三人も出來ました、これらの金は皆なかれの部屋の雜費や、書籍を買入るゝとに致しました、彼の學問はまことに初歩で、大學の科程にはドレにも入れるとが出來ませんから、特別に教育をせねばならぬのです、ソレデ教師も生徒も教えて見たいと思はれた方がありまして、丸で競爭でしたが、トウ〳〵ステメン博士の令嬢と、私の娘が、教へるとになりました、此二人はアフリカへ往つて實地傳道する積りで、熱心に教へて居りました、又高名の碩學フ

ライ博士は彼の爲に、聖書を講せられました、サムミーが參つて一月ばかり經ちまして、私は北インヂヤナ州チエリブスコと云ふ村へ説教に參りましたが、其時禮拜の跡でサムミーの話を致し、かれを養ふ資本は少しもないけれど、信仰で養ふて居ると、簡單に話しました處、かへりがけにトマス兄は、かれの爲めとて五十錢の金を渡され、翌朝急いでステーションに往く時、キッチヤー兄は、その店先から私を呼び止めて、五弗の銀行手形を出して、聖靈はこれを君の信仰資本に與へろとお命じになりましたと申されました、信仰資本、これは實に耳新しい語でありますが、私は快く受取ました、これらを始として、各處から續々教育資金を送り越されまして其人數は百人以上になりました、ジヤコブ、キッチヤー兄か信仰資本とて五弗送られてから、三年後も、其資本は消失せないで、『其桶の粉は竭きず其瓶の油は絶ず』あつて、左程苦しまずに彼を養ふ

とが出來たのは、實に神の榮と申さねはなりません。

信仰資本と、云ふ文字が出來たのは、サムミー、モーリスを養ふとから起つたので、今ではテーロル大學の氣風を一變致しましたが、かれ自身がこの學校の信仰資本であつたのでした、彼はメリット氏の申された通り、人の心を神の方へ向けさすものです、それ故此校に參つて、居らるゝ、數多の青年は、傳道と云ふとに精神を向けまして、殆んど神學校とでも申すべき有樣になりましたのみならず、大學もズン〳〵發達致しました。

サムミーが茲に參つた後に、一人のアーメニヤの少年を傳道師にする教育をする樣にと頼まれました、かれが桑港に上陸した時には、友達もなく、金もなく、只少しばかり英語が話せるのみでした、ニューヨルクのウオーカー博士は此少年を暫らく教育した上、或學校の給費生にする積で、トウ〳〵我々に托されたのですが、彼の信仰資本はこれをも快く養ふとが出來ました、そしてサムミーと此少年とは大層懇意になり、一緒に勉强して居りました、サムミーは一生懸命勉强致しましたゆへ、程なく教へるとも、說教するとも出來る樣なりました、かれは殊に、聖書に明るくありました、私は一度其說教を聞きましたが、其思想の斬新し く、其言葉に威力あるのには、實に吃驚致しました、かれの話は靜かで熱心で自然で、そして單純です、凡そ四十分ばかり述べましたが、多くの聽衆は何れも感動致しました、彼は又祈禱の人です、私は度々かれの部屋へ參つて、お父さんとお話するのを聞きましたが、丸で私共お互に會話する樣に有の儘、祈るのです、私はしば〳〵朝早く外の生徒の起きない前や、または夜遲く外の生徒の熟睡して居る頃、彼の祈を聞きます、其同輩のトマス、ニウバーンと云ふ學生も度々其部屋を訪ふて熱心な祈り

をして居るのを見たと申しました、彼は誰が戸を叩いても、それにかまはず、其心の滿足する迄、所つて居ります、そして微笑ながら戸を開けて『サァおは入ンなされ、私は今お話をした處でした』と。申すのです、サムミーは聖書を非常に大切に致し、自分で讀むばかりでなく、誰でも其部屋へ往つた人に、一章位讀んで貰ひます、或日未信徒の一青年がサムミーの部屋へ參りました、サムミーは例の通り聖書朗讀を賴みますと、かれは聖書を信じないと答へました、スルトサムミーは『ナゼ此書を信じないのですか、君のお父さんの話しも、兄弟の話しも信じませんか、大陽は輝いて居るが君は信じませんか、神はお父さんで、キリストは兄弟、聖靈は太陽です、私は君の爲に祈りましやう』と、すぐ祈りましたが、此青年もトウ〳〵信者になりました。彼は又毎週一度斷食致すのを例として居り木曜日の夕から、土曜日の朝まで、食物一ト片も、水一滴も口中に入れ

ることはありません、けれど彼は樂しげに見えました、彼が斷食をして居るとは、食卓を一緒にして居る者の外は知らない位でした。彼は又米國を暮ひ、キリスト教文明を理想して、自國を救ふことを思ひめぐらして居りました。或歳感謝日の夜、私はアフリカとアメリカとドチラがよいかと尋ねますと、彼は慣例の燒七面鳥を食べて居りましたが、問ふ口の下から笑ひながら『リード氏、貴君は燒いた七面鳥と、生の猿とドチラが御好ですか』『ナンダヘサムミー、猿を食ふとエ』、彼は『左樣私は澤山の猿を生で食べました』と申しました。彼は米國は尤も好だけれど、早く卒業して國へ歸つて、人々に說教したいと常々申して居り、『國へ歸つたら小供等の爲に獻身して働く積りです、彼等を砂原に座はらしてキリストの話を聞かせたいのです』と、併し此幸福の夢は眞とならず、彼は自分の代りに外の人を送りました。彼は又理解力の著しいもので、或夜の學生祈

禱會に起ちて申す樣『パンも物質で石も物質です、私は嘗て金を含んた石を見ましたが、其時他の人はこの塊は、麵包粉一桶の價よりも高價だと申されました、併し餓えた時には、其石を食ふとは出來ず、矢張りパンを食はねはなりません、その通り私の精神も、生命のパンなるキリストの外何物を以つても滿足することが出來ません』、なぞ云ふ如き、或は『宗教界に生活する者は肉を食ふ者と同じです、肉の或部分はしまつて、或部分は肥えて居ります、人々はしまつた方を嗜みますけれど、健全で强壯を望む者は兩方を食べなければなりません、宗教も其通り、喜びあり、また苦しみがあり升、諸君は喜びを好み苦しみを避けられます、けれど强き健かなキリスト教徒となるのには、兩方を取らねはなりません』、なぞ云ふ談話を致します。我大學中サムミー、モーリス程に博識のものを聞きません、彼に遇ふた人々は、皆其高尚で、單純の信仰に服さないものはなく其神聖な生涯の話には感動しないものはありません、彼等はこれを他の人々に話し傳へ、かくして彼は遠近の人々に知られる樣になりました。數多の人々は彼の寫眞をほしがられますゆへ、寫そうと致しても中々承諾致しません、ヤット苦心して撮影致しましたが、かれはそれを見て『私の容貌は醜くありません、ドウか欲しがる人へはイエスの寫眞を遣り度ものです』と申しました。

千八百九十三年の長い冬の間、サムミーはアフリカ美以教會と、彼の屬するベリー街美以教會の信仰復興の集會には必ず出席致しましたが、何時でも其信仰か浮沈する樣なとはありません、彼の誠實な黑い顏は、集會の祝福になり、單純なる彼の心は、人々を善化する、インスピレーションとなりましたが、何分其氣候は、彼に取つては非常に殘酷でありました、雪を知らない土地から參りまして、零度以下二十度から二十五度

の冷氣にどうして堪えるとが出來ましやうか、トウ〳〵彼は千八百九十三年一月に、烈しい風を引きまして、夫が本で水腫病に變じ、私共が其危篤の病であるとを知らない前に、かれは『主が召し玉ふから往かねばならぬ』と申して安らかに眠つたそうです。私はかれの病中アフリカ傳道のとを話して其意見を尋ねましたら、『外の方がして下さるほうがよふムりましやう』と答へました、かれは又『アフリカ傳道は、私の事業ではない、キリストの事業でありますから、キリストは其爲に人をお撰ひになるとでありましやう』と申しました。彼は其病氣にまけないで、イツも愉快げに見えました、決して苦痛を訴へるともなく、又失望も致しません、夜も長いと思はず、熱も高くはありませんでした、彼は始終イエスが來て一緒に居つて下さるとを感謝する旨を申して居りました、私は或時かれに死と云ふとを恐れないかと聞きましたら、彼は笑つて『ドウしまして、私はイエスを知りましてから死と云ふとは私の親友であります』と言ふ樣な安心を以つて、五月の或夜かれはかつて其尤も愛する教師方へ遇ふ爲に出立した樣に、死に遇はんとてキリストと共に參りました、かれ、神と偕に歩みしが、神これを取り玉ひければをらずなりき」かくの如くして此驚くべき生涯を終りましたが、かれを愛した數千の人々は何れも悲嘆に沈み、かくも有用の人物を速に奪ひ去られた神の攝理を審しみ、唯驚愕の餘り茫然と致して居りましたア、彼の企圖や我等の計畫、共にうたかたの泡と消え去ました、けれど神の智と識は我等が思ふ處考ふる所よりいたくまさらねばなりません。サムミーの葬式はベリー街美以教會から出しましたが、私がウエーン町で執行した中の尤も盛大な、尤も嚴肃のものでありました、棺は教會から町へ出しましたが、戸外には數百の人々がこれを待ち受け、老たるも若きも皆、悲嘆

の涙に咽び、誰れ一人首を上げるものもありませなんだ、これ何故ですか、彼は只一個の憐れなるアフリカ少年なのです、しかし此人々は何れも、かれから信仰と云ふとや、聖とせらるゝ事や、神の救の力など云ふとを新たに敎へられ、又見せられたゆへであります、彼は神から大ひに惠まれて、多くの人々へ分け與へました、我等は留めもあへぬ涙の内に、彼の清き魂は神の懷に導かれしと云ふ慰めを以て葬り了りました。

親愛せしステメン嬢は、彼の墓頭に大きな石を置かれ、多くの人達は屢々此墓に詣りて、涙に手巾を濕すとであります、私はいまだかくの如く多くの人々の感情を起さした死人は、此町で見もし聞きもせない事であります、これ畢竟、聖靈彼の上に宿り、神のあかしの印の、其上にあるとを誰れも承知して居るからであります。

サムミーの死後の、木曜日の學生祈禱會は、銘々この献身した、男子の生涯から受け、また學んだ事柄を語り合ふて居りましたが、軈て會を閉ぢんとする頃、一少年は大ひに愁嘆せる儘起ちて、『私は只今サムミー、モーリスの代りに、アフリカに往かねばならぬとを命ぜられたと感じます、が此事業が私の上に落ちました様に、サムミーの信仰の外套が、ドウか私の上に落つる様、祈つて下さい』と申して席に就きますや、否、二人の青年も起つて同じ感情を述べられました、斯の如く、一人の代りに三人まで、アフリカに往く決心をした人を得ましたが、實に「彼死れども信仰によりて今なほ言へり」とある如く、彼の使命は、數多の天才あり、かつ聖められたる、青年子女の心を動かして、福音を宣傳する信仰を皷吹致しました、又彼の使命は、主の爲め働かんとする、貧困なる少年を、敎育する資金を設くるとを致しました、そして其資金は絶えず、其事業はテーロル大學のあらん限りは、發達進歩致すとであります。

サムエル、モーリス小傳 畢

教文館發賣書畧目

◎神學書類

著譯者	書名	定價	郵稅	上製	假製
●レイモンド著 山田寅之助譯	組織神學	四百匁の一圓五十錢	小包郵稅四錢	總錢	總錢
●シエルドン著 油松亂譯	教理歷史	四百匁の一圓六十五錢	小包郵稅四錢	總錢	總錢
●パウン著 植村正久譯	有神論	二十錢	稅二錢	總錢	總錢
●ピイ子ルイ著 ツヒイ子ルイ譯	天道總論	一圓四十五錢	稅四錢	總錢	總錢
●ハリス著 小林彦五郎譯	神の自啓論	二圓五十錢	稅五錢	總錢	總錢
●ルチン著 中田研吉譯	天道溯原	三十五錢	稅三錢	總錢	總錢
●ピクテト著 和泉彌六合譯	福音之大原理	二十五錢	稅二錢	總錢	總錢
●イレー著 山田寅之助譯	基督贖罪論	四十八錢	稅四錢	總錢	總錢
●青山學院教授ヤ著	新約聖書神學	六十錢	稅六錢	總錢	總錢
●リードマン編 高橋五郎譯 ブッシュ子ル著	創世記註釋	二十八錢	稅二錢	總錢	總錢
●原野彦太郎譯	耶穌之品性	四十錢	稅四錢	總錢	總錢

サムエル、モーリス小傳　畢

教文館發賣書畧目

◉神學書類

● レイモンド著 山田寅之助譯 組織神學　定價四圓五十錢　郵稅四錢
● シエルドン著 松浦松胤譯 教理歷史學　定價一圓　郵稅四錢
● パウン著 植村正久譯 有神原論　定價一圓六十五錢　郵稅四錢
● ピーパル著 ソイ子譯 天道總論　定價四圓廿錢　郵稅二錢
● ハリス著 小林彥五郎譯 神の自啓論　定價二圓　郵稅五錢
● マルチン著 牛田研吉譯 天道溯原論　定價一圓廿錢　郵稅三錢
● ピート著 ヤクヲ子合譯 和泉彌六 福音之大原理　定價四圓　郵稅五錢
● マイレー著 山田寅之助譯 基督贖罪論　定價二圓　郵稅十錢
● 青山學院教授 ソイヤ著 新約聖書神學　定價二十錢　郵稅十錢
● ウードマン編 高橋五郎譯 ブッシュ子ル著 創世記註釋　定價七十錢　郵稅十錢
● 原野彥太郎譯 耶穌之品性　定價四十錢　郵稅四錢

◉普通書類

書名	著譯者	定價	郵稅
基督人物考	ヘイグツド著 高橋五郎譯	三十五錢	六錢
ムーデー氏鑛	ロツドマン 藪內敬之助合譯	十八錢	四錢
幸福之生涯	スミス著 山鹿旗之進譯	廿五錢	六錢
余が信仰の經歷	坂本直寛述	四錢五厘	二錢
佛教管見	田中達著	廿八錢	六錢
犯罪救治論	田中太郎著	二十錢	四錢
史的批評 親鸞眞傳	村田勤著	二十錢	四錢
哲理經濟論	クラーク著 濵田文治譯	廿八錢	六錢
道之摘草	スペンサー孃著	十五錢	四錢
わらべの友	スペンサー孃著	七錢	二錢
四人の人	ストーカル著 松濤園主人譯	二十錢	四錢
青年規箴	鹿洲生撰	十二錢	四錢
希伯來詩 心の緒琴	湯谷磋一郎著	假綴四十五錢 上製五十錢	八錢
焰之舌	アーサー著 工藤陽太郎譯	假綴卅二錢 上製卅六錢	八錢
テトス物語	キングスレー著 メムソン、神原合譯	假綴廿五錢 上製三十錢	八錢
神之話 全十一冊	三戸吉太郎著	合本二十二錢 各冊二錢	合本郵稅四錢

書名	著譯者	定價	郵稅
信仰の栞	キーン著 フルカーソン譯	十錢	四錢
祈禱論	基督教倫理叢書第一卷	四錢	二錢
祈禱の垂訓	基督教倫理叢書號外	二錢五厘	二錢
基督教と小供	基督教倫理叢書第二卷	四錢	二錢
基督教と家庭	基督教倫理叢書第三卷	四錢	二錢
彪氏講演集	ヒユース著 田中達譯纂	十八錢	四錢
カルバート	吉田基治著	二十錢	四錢
聖靈之辯	ゴルドン著 タフト譯	十二錢	二錢
基督教の心髓	山田寅之助著	八錢	二錢
基督教と近世思想	ハーツホルン著	六錢	二錢
眞理易知	津田次郎著	十五錢	二錢
基督教名鑑	教文館編輯	十二錢	二錢

◉メソヂスト書類

書名	著譯者	定價	郵稅
教會條例釋義	メリル著 山田寅之助譯	二十五錢	四錢
美以教會 信條義解	山田寅之助著	十五錢	二錢
ウエスレーの傳	ビショップ 貞方虎之助合譯	一圓	十六錢

●ダニエルス著 田中達譯 繪入 メソヂスト史 定價四百匁の小包郵稅一圓

●スペンサー孃著 元良米子譯 スザナ、ウエスレー傳 定價郵稅廿五錢 六錢

●マクレー夫人著 佐々木三郎譯 美以教會史 定價郵稅十四錢

●改正增補 基督教聖歌集 十五錢 一圓以上ヲ

●山鹿旗之進著 組長のつとめ 定價郵稅十五錢 二錢

●教會條例 定價郵稅四十五錢 六錢

●教會禮文 布紙 二十錢 郵稅二錢 十二錢

⊙求道者必讀トラクト類

●安藤太郎君著 在布哇受洗始末 定價郵稅二錢 二錢

●小瀧山人譯 コッブ物語 定價郵稅二錢 二錢

●中田久古著 何故に基督教を信ずる能はざる乎 定價郵稅二錢 二錢

●ラウレンス著 配達人 脫營の兵士救されて救はる 定價郵稅四十枚迄二錢 二厘

●マツカルチ著 ピソン譯 一ひら物語 定價郵稅二錢 一錢五厘

●デルベッキ著 フルベッキ 基督教に關する誤解を辨ず 定價郵稅二錢 二錢

●ミューラー著 ミュー 未だ斯の如く言し人あらずと 定價郵稅二錢 二錢

●テーゲ著 松風村舍主人 松のしづく 定價郵稅四十枚迄二錢 一錢五厘

●鵜崎庚午郎著 播く者と獲る者 定價郵稅一錢 一厘

●繪入 眞の道しるべ 定價郵稅一錢 一厘

●レ著 放蕩息子 定價郵稅同 一厘

●コ著 耶蘇基督 定價郵稅二錢 三錢五厘

●平岡希久著 基督救案內 定價郵稅二錢 二錢

明治卅年四月廿一日印刷

仝　年四月廿五日發行

著者兼發行者　東京市京橋區銀座四丁目二番地　堀田達治

印刷者　東京市京橋區西紺屋町廿六番地　高田乙三

發行所　東京市京橋區銀座四丁目二番地　教文館

印刷所　東京市京橋區西紺屋町廿六七番地　株式會社秀英舍

C-31

昭和二十年四月廿日印刷
昭和二十年四月廿日發行
昭和二十年四月廿日發行

東京市麻布區霞町六番地
著作兼發行人　前　文　雄

東京市麻布區霞町二番地
印刷者　山　田　ひ　さ

東京市麻布區西町廿六番地
發行者　廣　田　繁　吉

東京市麻布區霞町二番地
印刷所　今　日　出　印　刷　所

5

亞弗利
加少年サムエル,モーリス小傳

国立国会図書館

特
8

020663-000-6

特47-890

サムエル・モーリス小伝（亜弗利加少年）

堀田　達治／著

M30
ABI-0480